

東京の緑に関するアンケート等について

- 子供アンケート
- 大学生アンケート
- 外国人アンケート
- 若者から提案をもらうイベント（若者と考える「みどりと生きるまちづくり」）

子供アンケート

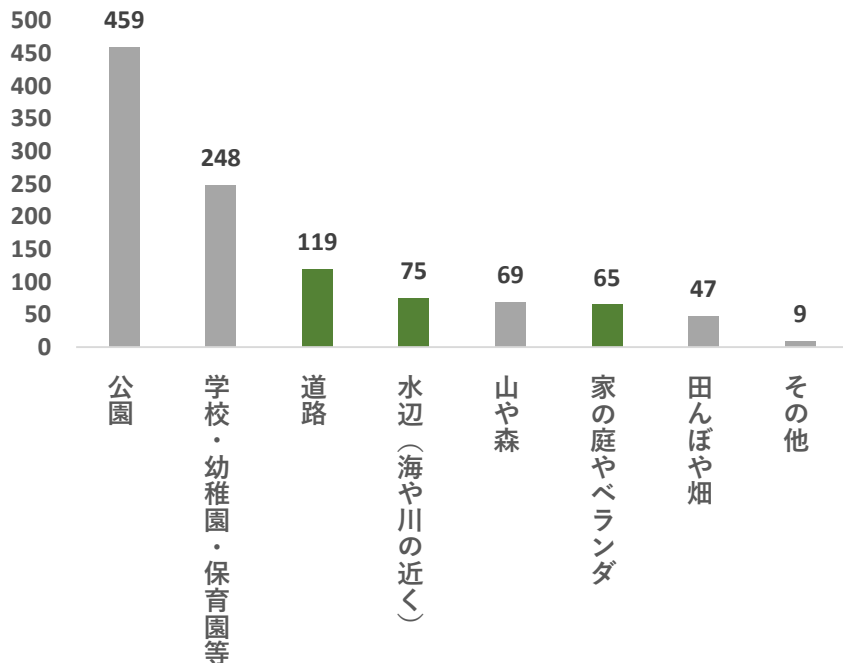
○調査期間：令和5年10月14日~15日 FUN MORE TIME SHINJUKU（西新宿）
10月19日~22日 上野恩賜公園開園150周年総合文化祭（上野公園）

○対象：18歳以下 549人

①0~6歳 156人②7~9歳 112人③10~12歳 73人④13~15歳 72人⑤16~18歳 136人

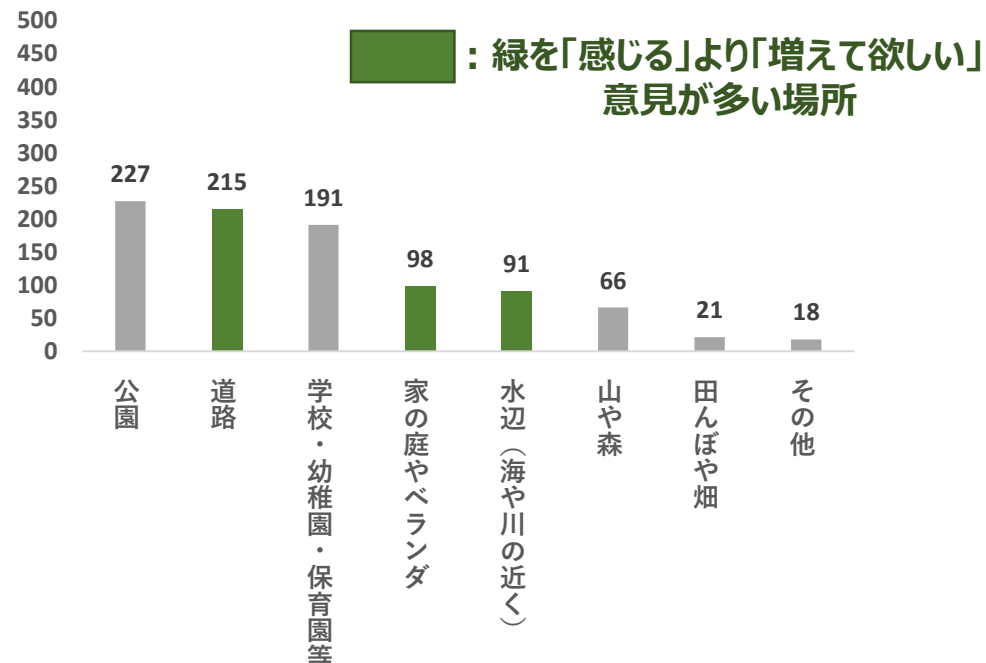
○質問（1）

あなたが普段生活している中で緑を見たり、感じたりしている場所はどこですか。（3つまで）



○質問（2）

今後、あなたはどんな場所に緑が増えてほしいと思いますか（3つまで）



○その他（自由記入）

・すべての場所・寺神社・ビルの周り・駅・動物園・病院の庭

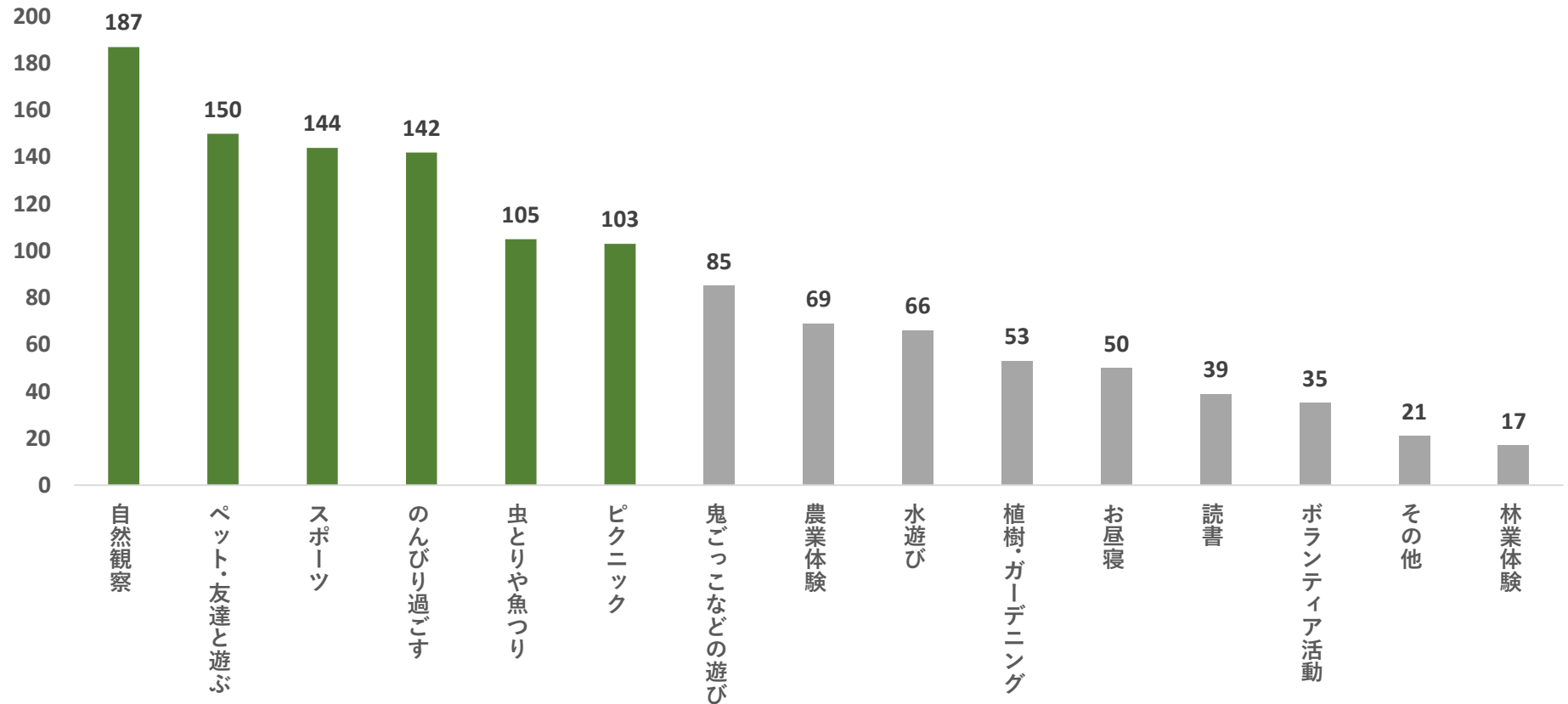
○その他（自由記入）

・全ての場所・十分である・町中・ビルの周り・家・駅・公共施設
・ホテルの周り・博物館・動物園

子供アンケート

○質問（3）

あなたは、質問（1）、（2）で答えた場所でどんなことをしてみたいですか。（3つまで）



○その他（自由記入）

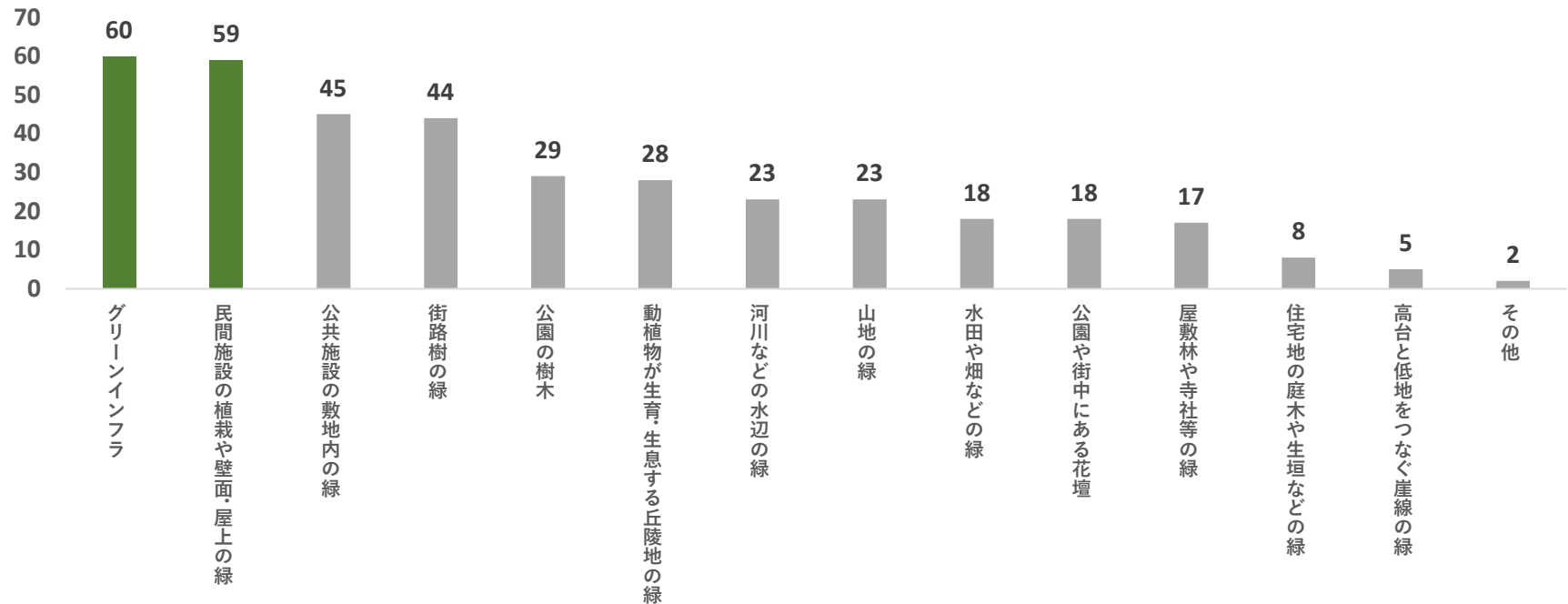
- ・散歩・かけっこ・ゲーム・アスレチック・木登り・BBQ・キャンプ・花の観察・自然と触れ合う
- ・ミニ電車・自転車・全部・お祭・デッサン・鉄棒・ボート・ブランコ・モノづくり・ラクロス

大学生アンケート

- 調査期間：令和5年10月18日（水）
- 対象：東京都立大学 現役学生137人

○質問(1)

100年先を見据え「みどりと生きるまちづくり」を進めるためには、どのような取組が必要だと思いますか。この中から3つまでお選びください。



○質問(2)

(2) (1) で選択した緑などを「まもる」「増やし・つなぐ」「活かす」まちづくりを進めるため、東京都は具体的にどのようなことをすべきか、あなたの考えを記入してください。

- 回答 次ページ以降参照

「まもる」取組

➤ 生物多様性について

- ◆ 人々が自然(みどり)を嫌う最大の理由は虫であるため、**虫対策が必要**
- ◆ 豊かな緑と生き物の保護は大切だが、その**緑と常に生きている人々の補償**をすることも大切
- ◆ 動植物が繁殖し共存できるように**動植物目線での街づくり**

➤ 屋敷林・寺社林について

- ◆ 寺、神社の保有する伝統的な緑を壊さない

➤ 森林・山地の保全

- ◆ Vegetation（植生）を意識して、人工物にならないような取り組みをすべき
- ◆ 山地は土砂災害を防ぐとともに、観光地や木材として利用できる道を模索する（里山として活用）

➤ 保全地域について

- ◆ 緑に対する関心を高めた上で開発することが、長スパンで価値を高めるために必要
- ◆ 緑の創出もとても重要であるが、**まず自然の破壊を防ぐことを重点的に**取り組むことも大切

「増やし・つなぐ」取組

➤ まちなかにおける緑の拡充について

- ◆ 海外諸都市のように開放的な緑空間を整備を進めるべき
- ◆ 建物を建てる時に緑化の評価割合を増やし、自然と調和した建物を建てることを推進する
- ◆ 民間企業に対し、**施設の体積に対し一定割合以上の緑の体積をつくることを義務付ける**
- ◆ 屋上や壁面等の緑を導入したビル等への減税や補助金を取り入れていくべき
- ◆ 民間施設と一緒に植えられた緑は解体時に撤去されるため、人工物と緑は独立したものとする
- ◆ 新宿御苑やドームシティのような**観光と緑が両方楽しめる施設**を作る

➤ 緑と水のネットワーク化について

- ◆ 河川では水辺の植樹とともに、河川にあるゴミの撤去、雑草除去、美化も併せて行う
- ◆ **都営地下鉄駅の通路などに花壇**などを整備し、臭いのこもりがちな地下の美化にも役立つ
- ◆ 川沿い・道沿いに木を増やせば、涼しいし、街を歩くのが楽しくなる
- ◆ 樹木のような大きい植物ではなく、**比較的小さな植物を街中に設置**する
- ◆ 緑を植えた場合のメリットを与えることで、個人住宅の庭に緑を増やすインセンティブを与える
- ◆ 区市町村と協力し何年までに何haの緑地をつくるなど**具体的な目標**を立て、植林プロジェクトなど実行

「増やし・つなぐ」取組

➤ 道路における緑の創出について

- ◆ 公園や街路樹だけでなく**建物や道路自体を緑化**していけるような仕組みを作っていくべき
- ◆ 街路樹に季節を感じられる木を植え、人々に緑に対して親しみを持たせるべき（桜、きんもくせい等）
- ◆ **街路樹はCO2を減らすという観点で定期的に植え換え**をすることで、災害時のリスクを減らせる

➤ 公園整備の加速について

- ◆ 全ての公園整備は非現実だが、利用頻度や人数、立地等に応じて優先度をつけ荒地から緑地化すべき
- ◆ 公園の樹木は子どもの遊ぶ場所としても重要

➤ 都民・民間企業等との協働による緑化の推進

- ◆ 地域の人々や子供たちが花を植え、育てることで、植物の重要性を学ぶと共に、地域の連携も強まる
- ◆ 「緑」の保全は環境保護のためだけでなく、**地域住民の憩いの場、コミュニティの形成の場**になる
- ◆ 「まもる」「増やし・つなぐ」という観点で、公園の花を植える、育てるボランティアを実施すべき
- ◆ **都内の農地で収穫された農作物を販売できる環境を促進**する。新たなブランドを作る
- ◆ **公園などの花壇は職員だけで植えなく住民参加型**にし、都民も一緒に緑をまもり、増やしていく
- ◆ 適切に管理していくための人材の確保が必要である（大学生などの単発アルバイトとしての確保）

「活かす」取組

➤ 都民と一緒に緑と親しむ取組

- ◆ 「グリーンインフラ」という言葉の認知度を高める活動をする。ex)教室をひらく、動画をつくる
- ◆ 小学生や中学生を対象に、実際に町や緑地に訪れてまちづくりについて学ぶ機会や体験があると良い
- ◆ 町の中心部や目につく所の緑を増やすことで都民一人一人の意識の向上にも繋がっていくのではないかと
- ◆ 行政が様々な取組を行なっているというPRは都民の緑を大切にすることを意識を上げる
- ◆ 緑を増やしていくために、幼稚園、小学生など年頃の人達への緑の重要性を教える場を確保する
- ◆ 緑を増やそうと数値のみに捉われず、**地域の人々と協力しながら維持・管理していく仕組みを整える**
- ◆ **小さな頃から緑に囲まれた地で過ごす経験を積む**ことで、自然と自分が緑ある町と共に暮すと思える
- ◆ 小学校の授業で1クラス1本でも良いので植樹体験をし、地域を離れるまで木の成長を見れるようにする
- ◆ 子供が行く場所に緑を設置し、緑に対する親しみを覚えさせ「みどりと生きる」考えを抱いてもらう
- ◆ 小学校で年2くらいのペースで家族と緑のふれあいイベントみたいなのを開催するように義務化

➤ 緑の付加価値に着目した取組

- ◆ 資金の確保が重要のため、まちづくり情報を積極的にメディアで発信、その他の媒体での発信が重要
- ◆ 緑の保全が重要なので、農家への補助金や森・河川の管理団体の組合を作り活動を強化していく

「活かす」取組

▶ 緑・自然の機能を発揮 グリーンインフラの導入

- ◆ 植物を育てるだけでは、スペースもなく困難。水害対策や猛暑対策を兼ねて、緑を増やすべき
- ◆ シンガポールのように**氾濫原の機能を持つ公共空間**を作る。水害対策と緑化を併用できたら画期的
- ◆ ニューヨークのフライアントパークを参考とした**民間と連携したグリーンインフラ**の設置
- ◆ 国外の例だと、市民が遊ぶ緑を確保する役割と水害に対処する役割の相方を担う
- ◆ **その場所にメリットがある樹木選定**（避難場所：竹林 住宅密集地：燃えにくいシラカシ、ヤマモモなど）
- ◆ 道路の水はけの良さは災害面だけではなく、都民の生活のしやすさの面からも整備のメリットは大きい
- ◆ グリーンインフラはメリットを多く生みだせる緑なので、**町中に馴染むようなグリーンインフラ**を作る
- ◆ **都市環境と自然環境の調和は不必要**。災害が激甚化する中で被害対象を増やすことは適切でない
- ◆ 東京は土地が狭いのでグリーンインフラを整える際に、地中や人工物を活かす必要がある
- ◆ 水害や土砂くずれを防ぐために**地盤強化が図れるような植物**を植えること
- ◆ 災害が起きた時に対応できるようにするために、**外観よりも優先してグリーンインフラ等**を造るべき
- ◆ 河川の付近に樹木を増やし、**氾濫した際のストッパー**にする

外国人アンケート

○調査期間：令和5年11月27日～30日 都庁南側展望台

○対象：展望台に訪れた外国人 361人

<アンケート内容>

1. 来日目的は何ですか
2. 東京で訪れた場所はどこですか
3. 訪れた場所で緑の魅力を感じましたか
4. 東京のどこで緑を感じますか
5. 来日前に想像していたより、東京は緑の多い都市と感じますか
6. 住んだり訪れたりする都市を選ぶ際に、緑が多いことを重視しますか

<回答結果>

展望台に訪れた42カ国（地域含む）の外国人から回答を得た。

（アメリカ46人、オーストラリア41人、フランス29人、ドイツ28人、シンガポール22人など）

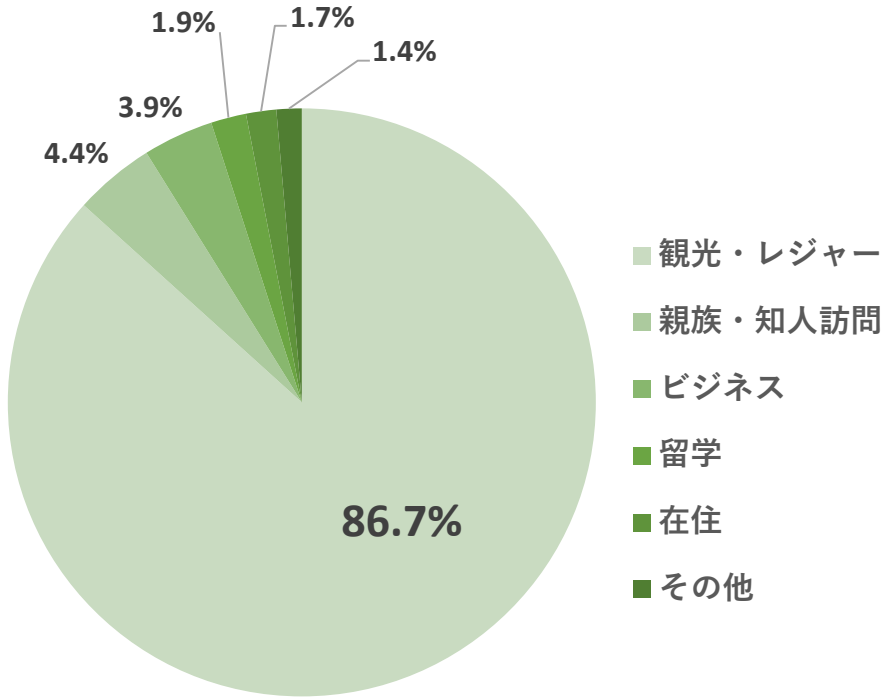
（10歳未満2人、10代17人、20代89人、30代118人、40代43人、50代54人、60代27人、70代以上11人）

<次ページ以降に個別の回答を記載>

外国人アンケート

○質問1

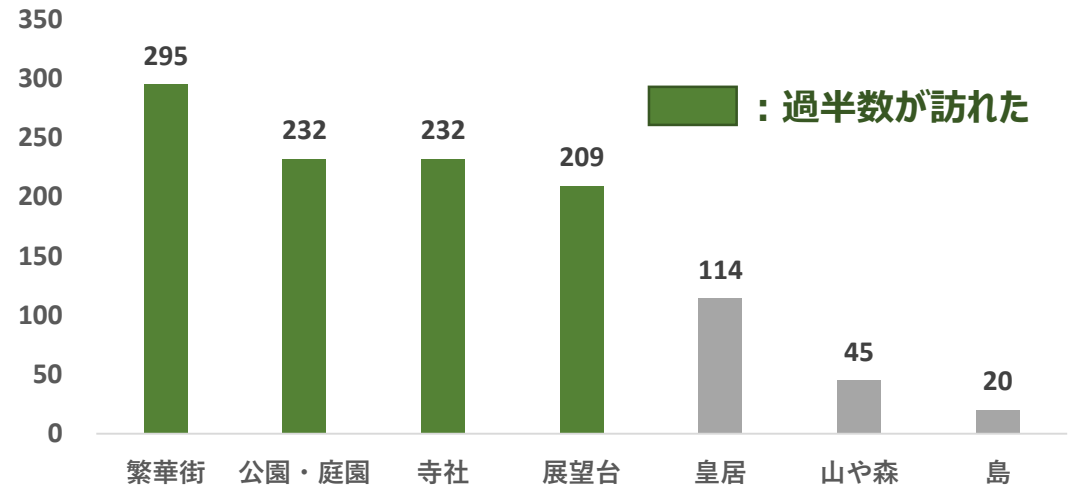
来日目的は何ですか？



➤ 観光目的で来日 85%以上

○質問2

東京で訪れた場所はどこですか？（複数可）



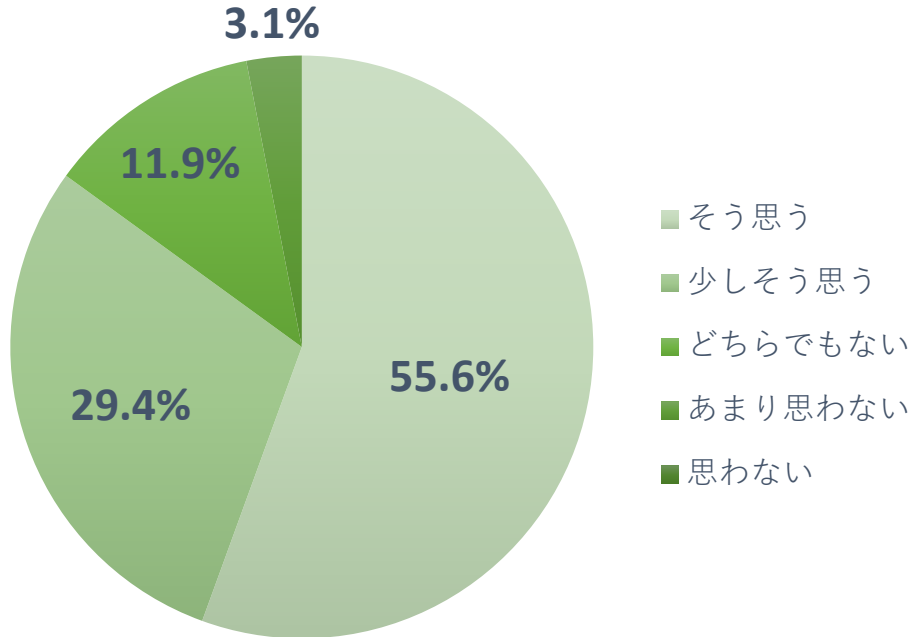
○その他（自由記入）

- ・チームラボ・東京国立博物館・オリンピックミュージアム
- ・日本科学未来館・三鷹の森ジブリ美術館・お台場
- ・六本木・築地・市ヶ谷・新宿・東京郊外

外国人アンケート

○質問3

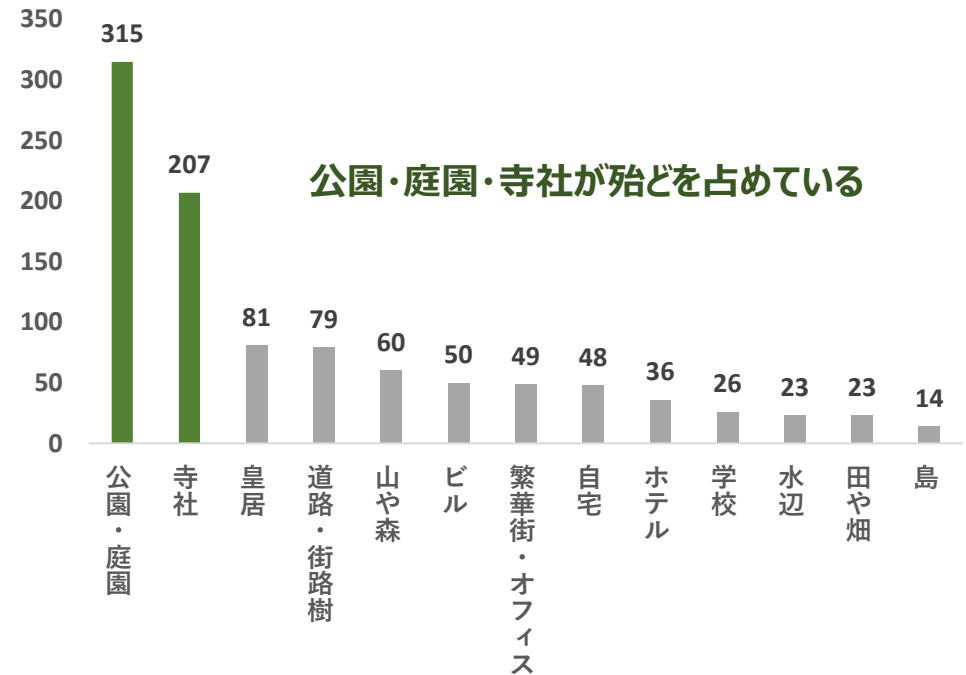
質問2で訪れた場所で緑を感じましたか？



➤ 訪れた場所で緑を感じた 計85%

○質問(4)

あなたは東京のどこで緑を感じますか？（複数可）



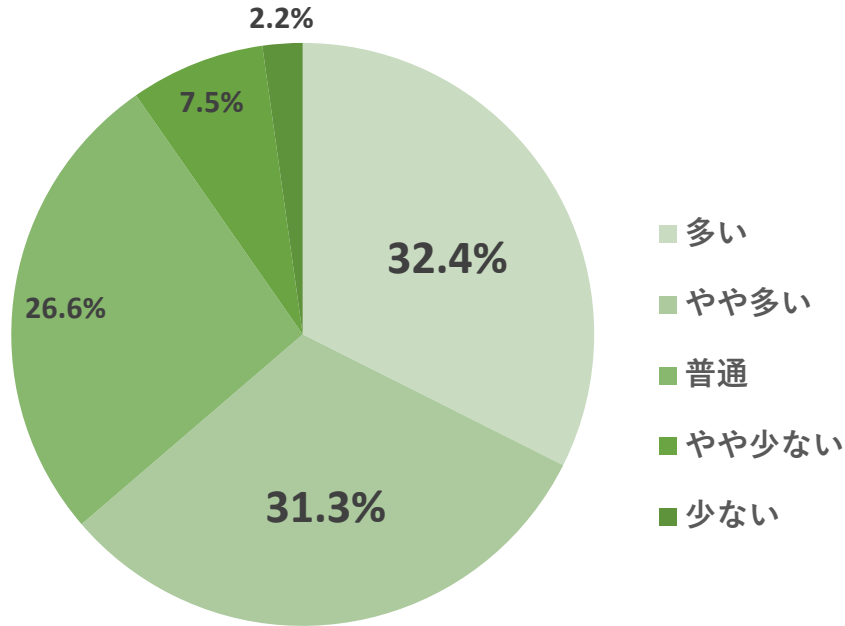
○その他（自由記入）

- ・代々木公園・新宿御苑・渋谷公園・バラ園
- ・新宿中央公園・豊洲六丁目公園・明治神宮
- ・国立博物館・井の頭公園

外国人アンケート

○質問(5)

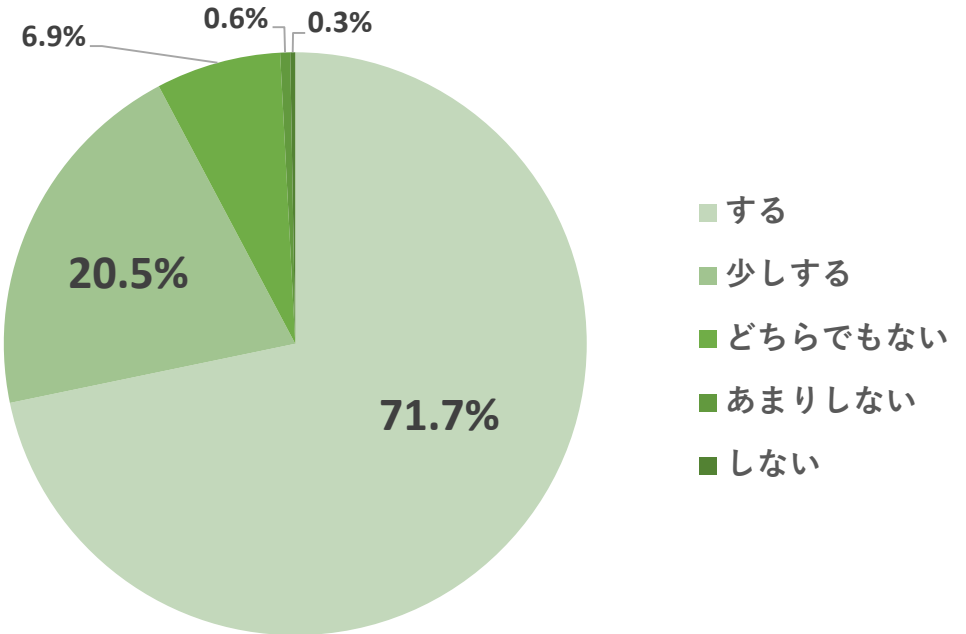
あなたが来日前に想像していたより、
東京は緑の多い都市と感じますか？



➤ 想像より緑を感じた 約65%

○質問(6)

あなたが住んだり訪れたりする都市を選ぶ際に、
緑が多いことを重視しますか？



➤ 緑が多いことを重視する 90%以上

若者と考える「みどりと生きるまちづくり」の開催

若者視点での提案を受けるため、「みどりと生きるまちづくり」をテーマに、
DO!NUTS TOKYO若者アンバサダーによるプレゼンテーションイベントを開催

- 開催日：11月28日（火）19時～20時
- 場所：シティラボ東京
- 発表者：DO!NUTS TOKYO若者アンバサダー※（発表者4名）

※東京都との連携の下でゼロエミアクション・ムーブメントを進める活動（DO!NUTS TOKYO）において、
企業や行政との対話、共創などの活動に取り組む若者メンバー

- プレゼンテーマ：みどりと生きるまちづくり
- 方式：対面で実施（オンラインで同時配信）



若者からの提案

テーマ	要旨
都市空間を心踊る・創造性の発揮できるキャンパスに	<ul style="list-style-type: none">• 緑や環境問題を多くの都民が自分事ととらえられていないことは問題• 「立体緑園都市」と「新しい都会の緑道」をベースにA R、推薦システム、生成AIを使って、歩行空間でより楽しく緑を学べる体験を提供• 体験を通じて、気候変動や生物多様性問題への市民の行動を促していく
放置林をなくし都内の森を循環させよう	<ul style="list-style-type: none">• 増加する放置林を、検索エンジンを活用した寄付により適切に間伐などを行う• 間伐などはイベント化して、都心の学生や社会人に環境体験の場として活用• 間伐材を都内の中学校の美術教材として活用し、木工コンクールを開催• 放置林に対する認知度を高め、手軽に支援ができる環境を創設
〇〇らしい緑の都市デザイン～土地の精霊と会話しながらみんなで進めるまちづくり～	<ul style="list-style-type: none">• 生成AIの追加学習を用いて、地域らしい・住民が好む風景を取り出し、SNSへの反応のような形で地域づくりへの参加を促す• 文化や暮らしなどの土地の情報を集積した「土地の精霊」をシステム化し、精霊と会話をしながらまちづくりを推進
「参加したい！」をもっと引き出す仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none">• 都会で生きる児童に環境体験の機会をより提供するため、親に伝わりやすい媒体での広報や、都心の公園の自然を活用した楽しく学べる機会を提供• 若手ハンターを活用し、獣害管理の人手不足・高齢化等の課題を解決• 初心者向け実習、狩猟が必要な地域との交流などのイベントを開催

若者からの東京グリーンビズの進め方に関する意見

- 緑や環境問題を多くの都民が自分事と捉えられるようにすると良い
- 若者をはじめ都民の考えを政策検討プロセスのなかに取り入れてもらえると良い
- 若者と行政が一緒に話すことが、課題解決のスタート地点だと思う

みどりと生きるまちづくり
TOKYO GREEN BIZ